

第6期第3回 新潟市亀田地区公民館運営審議会 議事概要

日 時： 平成30年7月6日（金） 午後2時～午後4時

場 所： 亀田地区公民館（江南区文化会館）講座室1

出席者： 新潟市亀田地区公民館運営審議会 石澤委員、大沢委員、川合委員、小見委員

坂井委員、田村委員、塚田委員、森委員

横木委員

（五十音順）

事務局 亀田地区公民館

伊藤（館長）、捧（主任）、笠原、阿部、小林、廣木

曾野木地区公民館

樋口（館長）、山田

横越地区公民館

池田（館長）、高山

1 開会 議長あいさつ

2 議事（報告事項）

（1）平成29年度事業報告について

（事務局） 平成29年度事業実施結果を報告

（森委員） 亀田地区公民館の「子ども体験事業」で8月は16名で、3月が8名となり、なぜ少なくなったのか。昨年の実績は、8月が14名、1月が12名、3月が20名だった。

（事務局） 要因としては、これまで平日に実施していたが、今回は土曜日開催で習い事や各種大会などと重なり参加が減っていると思われる。参加校は亀田小学校と亀田西小学校が大半。

（田村委員） 評価シートの評点は、誰がどのように付けているのか。また、参加者評価は加味されるのか。

（事務局） 評価は事業ごとに担当が行い、評点は、4が「適切・十分」、3が「概ね適切・十分」、2が「やや不適切・不十分」1が「不適切・不十分」で、平均点で表記している。参加者評価はアンケートの満足度を参考に数字に反映させている。

（塚田委員） アンケートが未実施となっているものもあるが、事業（企画）内容の比較や検討、参加者のニーズを知る上でも必要ではないか。

（事務局） 未実施の事業については、極力アンケートを実施するよう検討したい。

（横木委員） 評価の基準として参加者数など、前年との比較ができる資料にしてほしい。

（塚田委員） 男女の数値もあるとよい。

（2）平成30年度事業計画について

（事務局） 平成30年度事業計画を説明

（田村委員） コミュニティ・コーディネーター養成講座、茶の間の学校は江南区の3館連携で実施するのか。

（事務局） コミュニティ・コーディネーター養成講座は今年度から3館連携で実施します。茶の間の学校については、黒埼地区公民館との連携開催により亀田地区公民館で実施しますが、参加エリアを区切るようなものではない。

（横木委員） 平成30年度の特徴ある区づくり事業はあるか。また、予算の面など区の組織との連携は図られているか。

（事務局） 公民館事業で特徴ある区づくり事業に該当するものはないが、家庭教育学級など区

ビジョンに該当する事業はある。区の組織との連携については、今年度から健康福祉課、社会福祉協議会と会議を持ちながら検討していく予定。

(坂井委員) 子育て支援など健康福祉課で行っているものとの差別化を図り、公民館だからこそという特色を強く出してほしい。

(事務局) そのように取組みたい。

(坂井委員) 両川地区公民館の夏休み子ども体験教室の参加者が少ないという状況で、ひまわりクラブの参加など、どのように改善するのか。

(事務局) 今年度は既に、ひまわりクラブと話し合いを行い協力は難しいと言われている。また、公民館までが遠く保護者の送迎がないと子どもだけでの参加は難しい現状。

(横木委員) 限られた予算のなかで、参加人数の実績だけではないが、少ないというのは費用対効果を考えても事業を継続するかどうか、ひとつの判断基準なのでは。

(大沢委員) 協力体制という意味では、横越地区を考えると全てのひまわりクラブが同じではないと思う。

(塚田委員) 両川地区の高齢者の利用状況はどうか。

(事務局) 農家の多い地域で参加者は限られており、新規の利用者(参加者)は難しい。

(塚田委員) 私も農村地域に居住しているが、地域性なのか働くことが好きな方が多く、若い世代の参加が無く難しいと感じる。

(大沢委員) 地域が広いと交通手段も参加の弊害となっているのではないかと。

(事務局) 実際に車での参加者が大半で、参加者の固定化にもつながっている。

(横木委員) 他市や他区からの転入が公民館の利用促進にもつながると思うが難しい。

(塚田委員) 子育てなど参加しやすいものから継続した利用につなげるとよいと思うが、地元の公民館は周りの目が気になるなど難しいのかもしれない。しかし、高齢化が進む状況から家から近くで楽しめる公民館はもっと盛上げていかなければいけない。

(事務局) 男女の参加の違いについて、改善策などの提案はあるか。

(田村委員) 企画が重要だと思う。特に男性の好む企画を行っても良いのではないかと。

また、単身の高齢世帯が増えていく状況でサークル育成や茶の間の学校など地域の居場所づくりに繋がるような地域課題に向き合った公民館運営を行ってほしい。

(塚田委員) 予算面など厳しいかもしれないが、趣味や健康をテーマに地域の自治公民館へ出前講座を行うのも良いのではないかと。

(田村委員) 既に学校を利用した出前事業は行っているため、公民館単独ではなく地域や学校とさらに連携しながら事業を行ってほしい。また、公民館の大きな役割として学習相談や情報発信などにも力を入れてほしい。

(事務局) 学校に限らずコミュニティ協議会など地域の団体と連携しながら、地域や参加者主体の学習活動を行いたい。

公民館活動が盛んなところでは、公民館で様々な活動を行うことを「公民館する」というような地域もあるので参考にしていきたい。

(川合委員) 地域住民が公民館を作りあげるといった考えは非常に重要だと思う。また、農村の「働かなければ」という思いを公民館活動につなげることが出来たら良いと思う。

(小見委員) 田村委員の活動を紹介すると、地域の歴史を改めて学び、考え、体験するという学習活動から地域を大切にすることを醸成し、愛着を持って地域コミュニティを活性化につなげるという成功例がある。

公民館には情報発信や相談窓口など様々な機能を持った地域社会の中心であってほしい。また、地域課題への関わりとしてPTAの立場からの意見として、新潟市西区の事件を受け、子どもたちの安心安全を地域で考えるにあたり、公民館での活動が地域住民の意識の醸成などにつながることを期待する。

(事務局) 地域ごとに危険個所の点検を行っているが、コミュニティコーディネーター養成講座などの参考にしていきたいと思う。

(田村委員) コミュニティコーディネーターを養成するだけではなく、活動の支援なども行ってほしい。

(事務局) そのように取組みたい。

【配布資料】

- ・資料1-1～3 平成29年度事業報告（亀田・曾野木・横越）
- ・資料2-1～3 平成29年度事業評価シート（亀田・曾野木・横越）
- ・資料3-1～3 平成30年度事業計画（亀田・曾野木・横越）